

報告（7）宮古地区におけるアサリ養殖試験について

○高橋憲明・遠藤敬（宮水・普及）・高梨脩（水技・増養殖）
・宮本雄一郎（県庁・水振）

【目的】

近年、国産のアサリ生産量は、天然資源の減少に伴い低迷しているため、全国で人工採苗によるアサリ養殖の取り組みが進んでいる。また、アサリは、養殖での成長・生残とも良好であり、高値で取引されていることから、本県においても有用な養殖種目として注目され始めている。

本県における取組としては、岩手県水産技術センターで人工採苗を行い、平成30年度からその種苗を用いた養殖試験を3漁協で実施している。しかし、これまで漁協による人工採苗は実施されてこなかった。

そこで、水産技術センターの人工採苗技術を漁協等に移転し、本県において、事業規模でアサリ養殖を実施することを目的とした試験を実施した。

【方法】

試験では、まず、令和元年度に人工採苗を宮古漁協において実施した。また、本試験の結果を基に、事業規模で養殖を行うための「アサリ養殖マニュアル」を作成した。

また、令和2年度には、このマニュアルに基づいて宮古漁協に加え、船越湾漁協においても人工採苗を開始した。

【成果の概要】

1 アサリ養殖マニュアルの作成

令和元年度の宮古漁協における人工採苗試験の結果等により作成したマニュアルの概要は以下のとおり。

- ①親貝の確保・仕立、成熟確認
- ②産卵誘発（干出刺激、昇温刺激、精子懸濁液刺激、受精卵回収、卵数確認）
- ③幼生回収（採卵翌日、ベリジャー（D型）幼生）
- ④幼生飼育（2週間程度、無換水、毎日給餌（キートセロス・カルシトランス等）
- ⑤採苗（真水：海水＝3：2、着底基質：貝化石の粉末）
- ⑥着底稚貝の管理（30日程度、無換水、毎日給餌（キートセロス・グラシリス））
- ⑦中間育成（陸上施設、底メッシュ容器、アップウェリング）
- ⑧2次分散（養殖施設、多段丸カゴ式（軽石を使用））

2 宮古漁協（(株)隆勝丸）における養殖試験

令和元年度の宮古漁協における人工採苗の結果、79,480千粒の受精卵を確保し、305

千個の幼生を回収した。その後、底面メッシュ容器による中間育成、500 μ mメッシュ網による2次分散を経て、現在は、軽石を用いた5段の丸カゴによる養殖試験を実施中である。

令和2年度は、上記マニュアルに基づき干出刺激、昇温及び精子懸濁液刺激による産卵誘発を行ったものの、採卵には至らなかった。

3 船越湾漁協（ザキヤマ水産）における養殖試験

令和2年度に、上記マニュアルに基づいて、船越湾漁協において人工採苗を行った。その結果、干出刺激、昇温及び精子懸濁液刺激では産卵は誘発されず、餌及び精子懸濁液刺激により、24,150千粒の受精卵を確保し、5,200千個の幼生を回収した。その後、底面メッシュ容器による中間育成を行い、現在は、網をかけたカゴによる2次分散を行い、養殖試験を実施中である。

【今後の問題点】

令和2年度において、干出刺激、昇温及び精子懸濁液刺激では産卵は誘発されなかったことから、マニュアルの改訂を行い、餌及び精子懸濁液刺激による採苗方法を加え、人工採苗の安定化を目指す必要がある。

また、1次分散以降の管理について、本県における稚貝の成長、生残の詳細なデータを取るとともに、併せて養殖方法の検討も行い、本県におけるアサリ養殖方法の確立に向け、試験を継続する必要がある。



図1 人工採苗（昇温刺激）



図2 中間育成（底面メッシュ、アップウェリング）



図3 2次分散（網かけカゴ）



図4 餌刺激（キートセロス・グラシリス）